

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日
東

上場会社名 デンカ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4061 URL http://www.denka.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)山本 学
 問合せ先責任者 (役職名)IR室長 (氏名)大町 徹夫 (TEL)03 (5290) 5532
 四半期報告書提出予定日 2020年2月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	288,655	△7.0	24,024	△3.2	22,718	△6.4	16,700	△9.3
2019年3月期第3四半期	310,284	5.9	24,827	△1.2	24,261	△5.3	18,422	△2.8

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 15,416百万円 (△4.9%) 2019年3月期第3四半期 16,210百万円 (△29.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2020年3月期第3四半期	円 銭 193.04	円 銭 —
2019年3月期第3四半期	210.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2020年3月期第3四半期	百万円 500,563	百万円 253,304	% 49.9
2019年3月期	483,827	250,481	51.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 249,840百万円 2019年3月期 246,861百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2019年3月期	円 銭 —	円 銭 60.00	円 銭 —	円 銭 60.00	円 銭 120.00
2020年3月期	—	60.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	65.00	125.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	400,000	△3.2	35,000	2.3	32,000	△2.5	24,000	△4.2	277.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	88,555,840株	2019年3月期	88,555,840株
2020年3月期3Q	2,306,397株	2019年3月期	1,607,082株
2020年3月期3Q	86,515,240株	2019年3月期3Q	87,633,686株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結計算書 第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書 第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	11
2019年度 第3四半期決算概要	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費は緩やかに回復しましたが10月以降は消費税増税による反動減が見られ、輸出や生産も弱い動きとなるなど、力強さに欠ける動きとなりました。また、世界経済は、全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、米中貿易摩擦や英国のEU離脱問題の長期化により、先行きに対する懸念が一層高まりました。

このような経済環境のもと、当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティーの融合体」「持続的成長」「健全な成長」にもとづき、2つの成長戦略である「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益の確保に注力いたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、車両電動化関連やヘルスケア分野での販売数量増加や、採算是正を目的とした販売価格の改定が進んだ一方で、一部製品で原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことや需要減による販売数量の減少があり、売上高は2,886億55百万円と前年同期に比べ216億28百万円(7.0%)の減収となりました。利益面では、営業利益は240億24百万円(前年同期比8億3百万円減、3.2%減益)、経常利益は227億18百万円(前年同期比15億43百万円減、6.4%減益)、親会社株主に帰属する四半期純利益は167億円(前年同期比17億22百万円減、9.3%減益)となりました。

<エラストマー・機能樹脂部門>

当部門の売上高は1,121億18百万円と前年同期に比べ218億36百万円(16.3%)の減収となりました。

クロロブレンゴムは全体的に需要が減退しており販売数量が前年を下回りました。また、スチレンモノマーやデンカシンガポール社のポリスチレン樹脂およびMS樹脂の販売は概ね堅調に推移しましたが、原材料価格の下落に応じた販売価格の見直しを行ったことから減収となりました。

<インフラ・ソーシャルソリューション部門>

当部門の売上高は412億85百万円と前年同期に比べ54百万円(0.1%)の減収となりました。

特殊混和材は出荷増および価格改定により増収となり、農業・土木用途向けのコルゲート管は概ね堅調でしたが、セメントや耐火物・鉄鋼用材料の販売は前年を下回りました。

<電子・先端プロダクツ部門>

当部門の売上高は499億24百万円と前年同期に比べ9億45百万円(1.9%)の増収となりました。

球状アルミナや高純度導電性カーボンブラックなどの車両電動化関連製品の販売は大幅に伸長し、電子回路基板および高信頼性放熱プレート“アルシンク”、LED用サイアロン蛍光体“アロンブライト”の販売は好調に推移しました。一方、電子部品・半導体関連分野向け機能フィルムや球状溶融シリカフィラーの販売は前年を下回りました。

<生活・環境プロダクツ部門>

当部門の売上高は281億23百万円と前年同期に比べ18億80百万円(6.3%)の減収となりました。

プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並となりましたが、合織かつら用原糸“トヨカロン”や食品包材用シートおよびその加工品の販売は前年を下回りました。

<ライフイノベーション部門>

当部門の売上高は287億33百万円と前年同期に比べ18億90百万円(7.0%)の増収となりました。

デンカ生研株式会社の試薬は国内、輸出とも好調に推移し、インフルエンザワクチンの出荷も前年を上回りました。

<その他部門>

当部門の売上高は284億70百万円と前年同期に比べ6億93百万円(2.4%)の減収となりました。

株式会社アクロス商事等の商社は取扱量が前年を下回りました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ167億35百万円増加の5,005億63百万円となりました。流動資産は、棚卸資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ78億51百万円増加の1,985億81百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の増加などにより前連結会計年度末に比べ88億84百万円増加の3,019億81百万円となりました。負債は、運転資金の増加に伴う有利子負債の増加などにより前連結会計年度末に比べ139億13百万円増加の2,472億59百万円となりました。

非支配株主持分を含めた純資産は前連結会計年度末に比べ28億22百万円増加して2,533億4百万円となりました。以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の51.0%から49.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2019年11月8日に公表した予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,902	14,315
受取手形及び売掛金	95,780	98,399
商品及び製品	47,455	52,490
仕掛品	4,389	3,164
原材料及び貯蔵品	19,911	19,845
その他	9,802	10,419
貸倒引当金	△511	△52
流動資産合計	190,730	198,581
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	62,393	61,795
機械装置及び運搬具（純額）	71,155	69,208
工具、器具及び備品（純額）	3,820	4,021
土地	63,366	63,446
リース資産（純額）	307	1,693
建設仮勘定	17,634	25,951
有形固定資産合計	218,677	226,116
無形固定資産		
のれん	8,312	7,417
特許権	250	481
ソフトウェア	978	970
その他	2,874	2,694
無形固定資産合計	12,415	11,564
投資その他の資産		
投資有価証券	55,028	57,505
長期貸付金	236	217
繰延税金資産	2,736	3,055
その他	4,122	3,850
貸倒引当金	△118	△328
投資その他の資産合計	62,004	64,300
固定資産合計	293,097	301,981
資産合計	483,827	500,563

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	52,924	50,644
短期借入金	43,101	44,823
コマーシャル・ペーパー	2,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	5,062	10,014
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	3,010	1,917
未払消費税等	487	1,341
賞与引当金	3,122	1,169
その他	39,338	40,583
流動負債合計	154,047	160,494
固定負債		
社債	22,000	37,000
長期借入金	34,969	24,954
繰延税金負債	4,961	6,160
再評価に係る繰延税金負債	8,403	8,403
退職給付に係る負債	7,269	7,081
株式給付引当金	44	53
その他	1,650	3,111
固定負債合計	79,298	86,764
負債合計	233,346	247,259
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,998	36,998
資本剰余金	49,353	49,355
利益剰余金	144,638	150,854
自己株式	△5,492	△7,591
株主資本合計	225,498	229,617
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,182	15,558
繰延ヘッジ損益	△345	△467
土地再評価差額金	10,260	10,259
為替換算調整勘定	△120	△1,867
退職給付に係る調整累計額	△3,614	△3,259
その他の包括利益累計額合計	21,362	20,223
非支配株主持分	3,620	3,464
純資産合計	250,481	253,304
負債純資産合計	483,827	500,563

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	310,284	288,655
売上原価	233,856	213,802
売上総利益	76,428	74,853
販売費及び一般管理費	51,600	50,828
営業利益	24,827	24,024
営業外収益		
受取利息	58	78
受取配当金	2,157	1,417
持分法による投資利益	837	467
為替差益	69	-
その他	392	470
営業外収益合計	3,515	2,433
営業外費用		
支払利息	542	648
固定資産処分損	1,131	982
操業休止等経費	1,136	421
為替差損	-	602
その他	1,271	1,084
営業外費用合計	4,081	3,739
経常利益	24,261	22,718
特別損失		
災害による損失	622	-
事業整理損	-	801
特別損失合計	622	801
税金等調整前四半期純利益	23,639	21,916
法人税、住民税及び事業税	5,462	5,333
四半期純利益	18,177	16,582
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△245	△117
親会社株主に帰属する四半期純利益	18,422	16,700

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	18,177	16,582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,072	296
為替換算調整勘定	△20	△1,806
退職給付に係る調整額	291	354
持分法適用会社に対する持分相当額	△164	△11
その他の包括利益合計	△1,966	△1,166
四半期包括利益	16,210	15,416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,575	15,561
非支配株主に係る四半期包括利益	△364	△145

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過的な取扱いに従っており、会計方針の変更による累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に計上しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末の有形固定資産の「リース資産(純額)」が1,373百万円増加し、流動負債の「その他」が197百万円及び固定負債の「その他」が1,457百万円増加しております。当第四半3期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高は306百万円減少しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	エラスト マー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャル ソリ ューシ ョン	電子・先 端プロダ クツ	生活・環 境プロダ クツ	ライフイ ノベーション	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	133,954	41,339	48,979	30,003	26,842	281,119	29,164	310,284	—	310,284
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	40	—	—	—	40	5,007	5,047	(5,047)	—
計	133,954	41,379	48,979	30,003	26,842	281,160	34,172	315,332	(5,047)	310,284
セグメント利益 又は損失 (△)	10,213	△15	8,426	792	4,444	23,862	917	24,779	48	24,827

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額48百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	177,708	88,119	44,456	132,575	310,284
連結売上高に占める割合 (%)	57.3	28.4	14.3	42.7	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 事業 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 3
	エラスト マー・機 能樹脂	インフ ラ・ソ ーシャ ルソ リユ ーシ ョン	電子・先 端プロダ クツ	生活・環 境プロダ クツ	ライフ イノー ベーシ ョン	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	112,118	41,285	49,924	28,123	28,733	260,184	28,470	288,655	—	288,655
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	143	37	—	—	—	181	5,058	5,239	(5,239)	—
計	112,261	41,323	49,924	28,123	28,733	260,365	33,528	293,894	(5,239)	288,655
セグメント利益	8,158	350	8,502	5	6,332	23,349	754	24,103	(78)	24,024

(注) 1. 「その他事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、プラントエンジニアリング事業、商社事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△78百万円は、セグメント間取引消去によるものです。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 地域ごとの売上高に関する情報

(単位：百万円)

	日本	海外			合計
		アジア	その他	計	
売上高	170,760	78,959	38,935	117,894	288,655
連結売上高に占める割合 (%)	59.2	27.4	13.5	40.8	100.0

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2019年度 第3四半期決算概要

2020年2月7日
デンカ株式会社

1. 業績

(単位:億円)

	2019年度 第3四半期実績 (4-12月)	2018年度 第3四半期実績 (4-12月)	増 減
売上高	2,887	3,103	△ 216
営業利益	240	248	△ 8
経常利益	227	243	△ 15
親会社株主に帰属する当期純利益	167	184	△ 17

	2019年 通期予想 (4-3月)	2018年 通期実績 (4-3月)
	4,000	4,131
	350	342
	320	328
	240	250

2. 総括(前年同期比)

- 当社グループは、企業理念“The Denka Value”を実現すべく、昨年度より5か年の経営計画「Denka Value-Up」の3つの成長ビジョン「スペシャリティの融合体」「持続的成長」「健全な成長」に基づき、2つの成長戦略「事業ポートフォリオの変革」と「革新的プロセスの導入」を推進し、業容の拡大と収益性向上に注力しております。
- 当第3四半期は、球状アルミナ、アセチレンブラック等車両電動化関連製品の販売好調が継続し、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売も前年を上回りました。その一方で、原材料価格下落に応じたスチレン系製品の販売価格の改定に加え、クロロプレンゴムや半導体関連製品(高機能フィルム・球状溶融シリカファイラー等)の販売数量が減少したことなどから、売上高は216億円減収の2,887億円(前年同期比7.0%減)となりました。そして営業利益は8億円減益の240億円(同3.2%減)、経常利益は227億円(同6.4%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は167億円(同9.3%減)と、それぞれ減益となりました。
- 世界経済は、米中貿易摩擦が引き続き重荷となる中、新型肺炎の感染が急拡大しており、先行きの不透明感が一層強まっております。こうした状況下、クロロプレンゴムなどの主力製品の需要回復には時間を要する見通しであり、全体としては低調な状況が続くことが懸念されるものの、一方では、スペシャリティ事業である電子・先端プロダクツやライフィノベーションの業績は伸長しており、当社としては引き続き全社一丸となって今期予想利益の確保に努めていきます。
そして上掲の「Denka Value-Up」の目標達成のため、その成長戦略をより積極的に進めます。

3. 参考数値・前提

(単位:億円)

	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	
投資	設備投資	238	229	9
	M & A 他	27	1	26
	計	265	230	35
減価償却費	166	172	△ 6	
研究開発費	112	114	△ 2	
有利子負債残高	1,268	1,235	33	

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	430	327
	1	1
	430	328
	230	229
	160	146
	1,200	1,121

	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績
為替レート [円/\$]	109.1	110.8
国産ナフサ [円/k]	42,600	51,500

	2019年 通期予想	2018年 通期実績
	109.1	110.7
	43,500	49,500

4.セグメント別状況(前年同期比)

- ・エラストマー・機能樹脂部門は、スチレンモノマープラントの非定修年であったことに加え、デンカシンガポール社のスチレン系樹脂のスプレッドは改善しましたが、クロロブレンゴムの販売数量が減少したことなどにより、減益となりました。
通期でもクロロブレンゴムの販売数量が前年を大きく下回ることから、減益を見込みます。
- ・インフラ・ソーシャルソリューション部門は、製品価格改定による収支改善が進んだことなどにより、第3四半期累計営業利益は黒字化しました。
第4四半期も価格改定が寄与することなどから、通期でも営業黒字を見込みます。
- ・電子・先端プロダクツ部門は、球状アルミナ、高純度導電性カーボンブラック等の車両電動化関連製品の販売が伸長したため、生産体制強化に伴い固定費負担が増加したことや、電子部品・半導体関連分野向けの高機能フィルムや球状溶融シリカファイバーの販売が前年同期を下回ったことなどのマイナス要因がありましたが、増益となりました。
第4四半期も車両電動化関連製品の好調な販売が続くことに加え、半導体関連製品の販売も緩やかな増加に転じる見通しであり、通期でも増益を見込みます。
- ・生活・環境プロダクツ部門は、プラスチック雨どいおよび工業用テープの販売は概ね前年同期並みとなりましたが、合繊かつら用原糸”トヨカロン”や、食品包材用シートおよびその加工品などの販売が前年同期を下回り、減益となりました。
第4四半期は、工業用テープの販売は引き続き前年を上回るものの、通期でも減益となる見込みです。
- ・ライフイノベーション部門は、デンカ生研株式会社の検査試薬やインフルエンザワクチンの販売が前年を上回ったことにより増益となりました。
第4四半期も検査試薬の販売が前年を上回る見通しであることから、通期でも増益を見込みます。

(単位:億円)

連結売上高・営業利益(実績・予想)		2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	2019年 通期予想	2018年 通期実績
エラストマー・ 機能樹脂	売上高	1,121	1,340	△ 218	1,600	1,792
	営業利益	82	102	△ 21	125	142
インフラ・ソーシャル ソリューション	売上高	413	413	△ 1	560	548
	営業利益	4	△ 0	4	10	△ 3
電子・先端 プロダクツ	売上高	499	490	9	710	671
	営業利益	85	84	1	130	118
生活・環境 プロダクツ	売上高	281	300	△ 19	380	390
	営業利益	0	8	△ 8	5	9
ライフ イノベーション	売上高	287	268	19	370	341
	営業利益	63	44	19	70	63
その他 消去差	売上高	285	292	△ 7	380	388
	営業利益	7	10	△ 3	10	13
合 計	売上高	2,887	3,103	△ 216	4,000	4,131
	営業利益	240	248	△ 8	350	342

連結売上高増減	売上高				
	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	販売価格差	数量差
エラストマー・機能樹脂	1,121	1,340	△ 218	△ 128	△ 90
インフラ・ソーシャルソリューション	413	413	△ 1	13	△ 13
電子・先端プロダクツ	499	490	9	7	3
生活・環境プロダクツ	281	300	△ 19	△ 5	△ 14
ライフイノベーション	287	268	19	△ 4	23
そ の 他	285	292	△ 7	-	△ 7
合 計	2,887	3,103	△ 216	△ 118	△ 98

連結営業利益増減	営業利益					
	2019年度 第3四半期実績	2018年度 第3四半期実績	増 減	販売価格差	数量差	コスト差等
エラストマー・機能樹脂	82	102	△ 21	△ 128	△ 48	155
インフラ・ソーシャルソリューション	4	△ 0	4	13	△ 5	△ 4
電子・先端プロダクツ	85	84	1	7	4	△ 10
生活・環境プロダクツ	0	8	△ 8	△ 5	△ 6	4
ライフイノベーション	63	44	19	△ 4	17	7
そ の 他	7	10	△ 3	-	0	△ 3
合 計	240	248	△ 8	△ 118	△ 39	149